

## 「献酌官と料理長の夢」

2021年06月11日

「三日のうちに、ファラオはあなたの頭を上げて、元の仕事に戻してくれるでしょう。あなたはさきに献酌官であったときの慣例に従って、ファラオの杯を、その手に献げるでしょう。そこで、あなたが幸運に恵まれたときには、私を思い出し、どうか私に慈しみを示してください。」（創世記 40 章 13 節～14 節 a）

ヨセフは主人ポィテファルの妻によって無実の罪を着せられ、投獄されたが、神が共におられ、彼のなすことに恵みを与え、牢獄長から囚人監視をまかされるほどの信頼を得た。エジプト王の献酌官と料理長が王に過ちを犯した罪で、親衛隊長の屋敷にある、ヨセフがつながれている監獄に入れられた。親衛隊長はヨセフに彼らの世話をさせた。

幾日が過ぎて、投獄されていた献酌官と料理長が二人とも同じ夜、それぞれ夢を見た。朝、ヨセフが行って見ると、彼らは困惑していたので、「どうして今日は、そんなに顔色が悪いのですか」と尋ねた。彼らは、「私たちは夢を見たのですが、それを解き明かしてくれる人がいません」と答えた。ヨセフは、「解き明かしは神によることではありませんか。どうぞ話してみてください」と言うと、献酌官から自分の見た夢を語った。「夢の中で、一本のぶどうの木が目前にありました。そのぶどうの木には三本のつるがあり、それが芽を出し、花を咲かせ、ぶどうの房が熟しました。私の手にはファラオの杯がありましたので、私はぶどうを取って、ファラオの杯に搾り、その杯をファラオの手に献げました。」ヨセフは、夢の解き明かしを語った。三本のつるは三日のことで、三日のうちに、ファラオはあなたを元の仕事に戻してくれる。慣例に従い、ファラオの杯を、その手に献げるように釈放される。そこで、あなたが幸運に恵まれた時には、私を思い出し、ファラオに私のことを話し、この獄から私が出られるように慈しみを示してほしい。私はヘブライ人の地からさらわれて来た者で、私は地下牢に投げ込まれるような罪は犯していない、と。料理長は、献酌官が釈放されるという嬉しい夢解きを聞き、自分の見た夢に希望をもって語った。「私も夢を見たのですが、なんと三つのパン籠が私の頭の上にあったのです。いちばん上の籠には、料理人がファラオのために作ったあらゆる料理がありました。しかし鳥が私の頭の上で、籠からそれをついばんでいたのです。」ヨセフはその夢について答えて、三つの籠は三日のことで、三日のうちに、ファラオはあなたの頭を上げて切り離し、あなたを木に掛け、鳥があなたの肉をついばむ、と悲劇的な解き明かしをした。

三日目はファラオの誕生日で、全ての家臣のために、祝宴を催した。家臣の集まる真ん中で、献酌官と料理長の頭を上げさせた。そして、献酌官を元の仕事に戻し、ファラオの杯を献げるようになった。しかし、料理長は木に掛けられた。ヨセフの夢解きの通りになった。ヨセフは神に託された自らの人生を夢で見、また、他人の見た夢を解き明かす特別な能力を神から授かっていた。ヨセフの解放を依頼された献酌官は自分の解放を喜び、ヨセフのことを忘れてしまった。ヨセフは二年間、獄中生活を送らなければならない状態に置かれ、奴隷として売られた苦労はまだ続くことになった。

新約聖書でも、神のみ旨が夢で告げられている。マリアと婚約していたヨセフは夢で、マリアの懐妊は聖霊の働きであり、生まれてくるイエスによってインマヌエル（神は私たちと共におられる）が実現する、また、ヘロデの殺害を逃れるため、幼子イエスと母マリアを連れてエジプトに逃げなさいと告げられている。私に告げられたことは一度もない。